

再々評価調書

事業名	一級河川芥川 河川改修事業				
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 改良グループ (連絡先 06 - 6944 - 9297)				
事業箇所	高槻市				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	芥川は大阪北部の都市中心部を流れ、流域は資産が集積し洪水による被害は甚大なものとなるため、昭和35年度に全体計画を策定し、河道改修を行っている。平成16年度に阪急橋梁とJR橋梁間の河川整備計画をたて、1/100確率規模の改修を進めており、洪水による被害を軽減するため、水防活動の拠点となる防災ステーションの整備を行っている。			
	内容	改修延長 L=425m 目標流量：600m <sup>3</sup> /s (1/100年確率 時間雨量 84mm) 護岸工 L=425m、鉄道橋 2橋 防災ステーション1箇所			
	事業費	全体事業費：約9.5億円(約9.8億円) うち投資済事業費：約3.4億円(約3.0億円) (内訳)調査費等約 3億円( ) (内訳)調査費等約0.3億円( ) 用地費 約 6億円(約1.2億円) 用地費 約 6億円(約 3億円) 工事費 約8.6億円 工事費 約2.8億円(約2.7億円)			
	( )内の数値は前回評価時点のもの	【事業費の変更理由】 調査費等の追加 一部河川区域内に用地が存在し、想定価格の1/10となり、用地費が減額	【工事費の内訳】 鉄道橋 約8.0億円 護岸工 約4億円 防災ステーション 約2億円		
	事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】JRとの間で橋梁改築の協議中 【再評価時に予測した事業費変動要因の状況】特になし 【計画変更の予定】特になし			
	維持管理費	事業費の0.5%/年			
	上位計画	淀川水系河川整備基本方針[H19.8] 淀川水系淀川右岸ブロック河川整備計画[H16.11] 大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版[H17.3]			
	関連事業	芥川下流部は国直轄の工事区間(城西橋から下流)			
事業の進捗状況	経過	事前評価時点 (評価なし)	再評価時点 (H16)	再々評価時点 (H21)	分析
	事業採択年度	H7	H7	H7	JRの橋梁部の改修方法について、協議に期間を要しているため。
	事業着工年度	H7	H7	H7	
	完成予定年度	H23	H26	H28	
進捗状況		用地:25% <0.165ha / 0.66ha> 工事:31% 整備済延長 約0.10km(25%)	用地:100% <0.66ha / 0.66ha> 工事:35% 整備済延長 約0.10km(25%)	平成9年度 阪急橋梁完成 平成20年度 防災ステーション完成	
今後の事業進捗の見通し	JRとの橋梁改築協議を平成22年度までに完了し、平成23年度に工事着手する。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】特になし				

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
		氾濫防止面積 ：1,044ha 浸水家屋数 ：21,000戸	氾濫防止面積 ：1,044ha 浸水世帯数 ：28,577世帯	氾濫防止面積 ：1,044ha 浸水世帯数 ：27,926世帯	一連区間の河川改修により、被害軽減効果が得られる。
地元等の協力体制		・地元は事業に協力的である。	・ボランティアによる河川美化活動が盛んであり、河川整備に対して関心がある。 ・地元は事業に協力的である。	・同左	・概ね順調に事業を実施している。

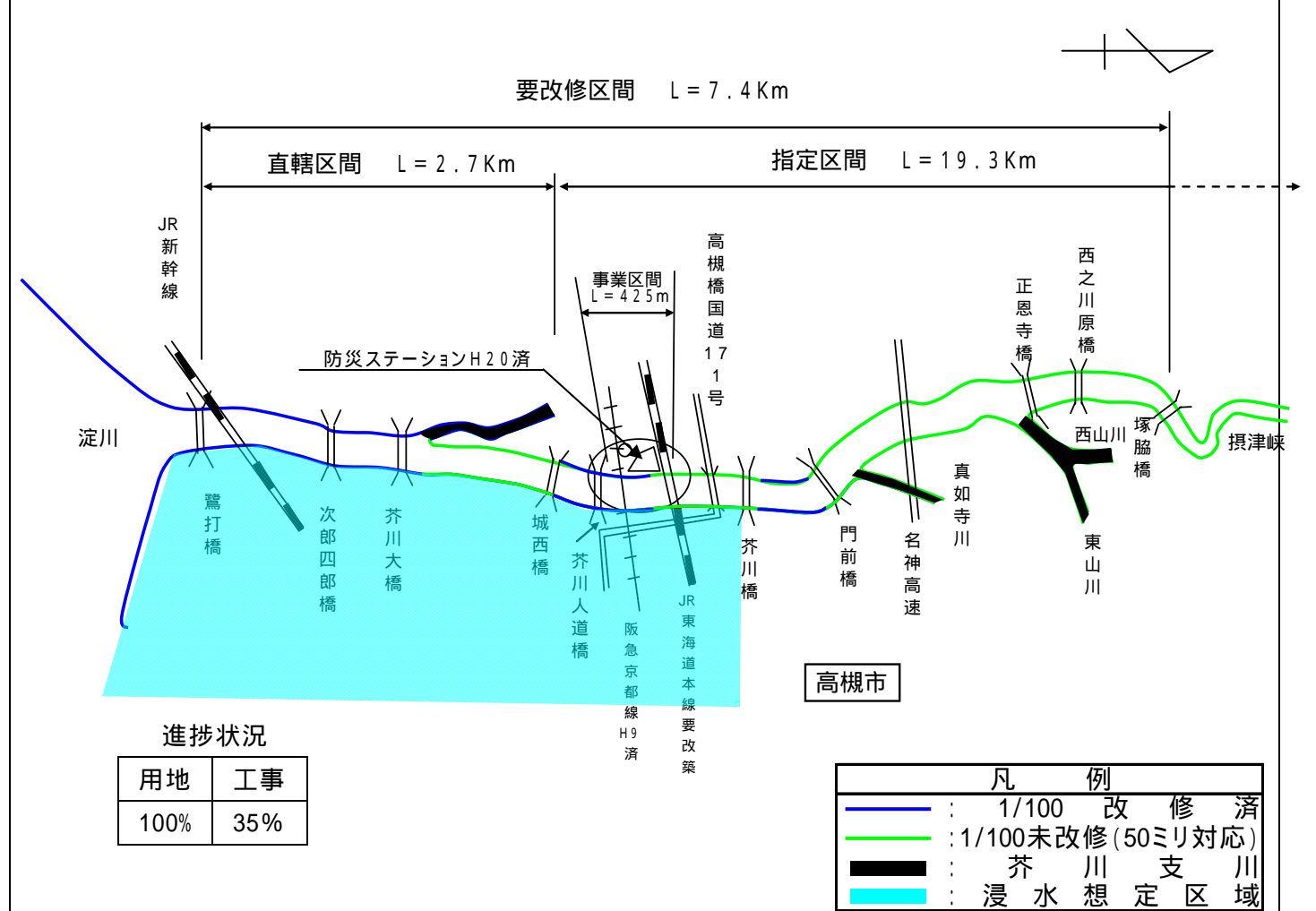
	事前評価時点での状況		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析	
		備考				
事業効果の分析	費用便益分析	・下記代替指標による	費用対効果(B/C) B/C = 114.25 B = 9128.7億円【31879.2億円】 C = 79.9億円【98.5億円】	B/C = 150.41 B = 14200.2億円【33661.8億円】 C = 94.4億円【120.1億円】	【 】金額は現在価値化前の値 ・総便益の増: 5071.5億円【1782.6億円】 ・総費用の増: 14.5億円【21.6億円】	
		算出手法	・治水経済調査マニュアル(H12.5)	・治水経済調査マニュアル(H17.4)	-	
		資産データ	資産評価単価	・治水経済調査マニュアル各種資産評価単価及びデータ(H14.12)	・治水経済調査マニュアル各種資産評価単価及びデータ(H21.2)	・資産データの更新による被害額の変更
			基礎資料	・平成12年国勢調査	・平成17年国勢調査	・氾濫区域内家屋数等の変更(氾濫面積は変更無し)
		便益計算	評価方式	・評価対象期間: 完成後50年間 ・便益(年平均被害軽減期待額): 9,128.7億円【31,879.2億円】 ・上記、便益を評価時点を基準とし現在価値化	・評価対象期間: 整備期間+完成後50年間 ・便益(年平均被害軽減期待額): 14,200.2億円【33,661.8億円】 ・同左	・マニュアル変更に伴う整備期間(H7~H27)便益の追加: 65.5億円【65.6億円】 ・同上に伴う施設等の残存価値の追加: 0.3億円 ・資産データ、家屋数の変更に伴う便益の増: 23.5億円【41.1億円】
費用計算	評価方式	・評価対象期間 整備期間(建設費)+完成後50年間(維持管理費) ・建設費: 79.4億円【97.2億円】 ・維持管理費(実績値): 0.5億円【1.3億円】 ・上記、費用を評価時点を基準とし現在価値化	・同左 ・建設費: 82.8億円【92.6億円】 ・維持管理費(建設費の0.5%): 11.6億円【27.5億円】 ・同左	・建設費の変化に伴う現在価値化による総費用の変化: 3.4億円【4.6億円】 ・算定手法の変更による維持管理費の増: 11.1億円【26.2億円】		
その他の指標(代替指標)	事業効果(100年確率) ・C/B = 16.3 年平均被害軽減額 B = 6.15億円 総事業費 C = 100.16億円	・便益内容: 資産被害抑止効果 ・受益者: 周辺住民、農業従事者 ・事業効果算定の根拠: 治水経済要綱				
定性的分析	<安全・安心>: 浸水被害の軽減(生命・財産) ・河川改修により、治水安全度を向上し、府民の生命・財産を守る。	<安心・安全> ・同左 <活力>: 交流拠点の形成(良好な水辺空間) ・河川は貴重なオープンスペースとして機能し、人々にゆとりと安らぎを与えている。高水敷や堤防道路は、周辺住民の散歩道として利用されており、人々の憩いの場となる水辺空間である。 <快適性>: 景観(周辺住民と調和した水辺景観) ・自然環境に配慮し、周囲との調和と親水性の高い河川空間を創り出すことで、人々にやすらぎを与える水辺環境を確保する。 <その他>: 防災ステーション ・洪水時の水防活動拠点となる。	<安心・安全> ・同左 <活力> ・同左 <快適性> ・同左 <その他>: 防災ステーション ・資産の集積する芥川流域において、災害発生時に必要な資材を備蓄したり、資材の搬入やヘリコプターの離着陸などに必要な場所を確保することで、被害を軽減する。	<安心・安全> ・河川改修の実施済区間では、治水安全度が向上。 <活力> ・高水敷や堤防道路などの地域協働活動の拠点となっている。 <快適性> ・周辺の景観と調和のとれた整備を実施。		
自然環境等への影響と対策		<影響> 河川改修は、現況河道内の河床掘削により行われ、工事に伴い、現況植生が失われるとともに、魚類、底生動物についても瀬及び淵が一時的に失われてしまう。 <対策> 改修前の自然環境、生態系に配慮した護岸構造とする。	・同左	・河川整備計画に従い、自然環境の保全と回復に配慮した改修を行っている。		
その他特記すべき事項			高槻市のハザードマップは作成済で、市役所ホームページで公表されている。			
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要			【意見具申】本事業については、「事業継続は妥当」と判断する。 【府の対応方針】『事業実施』とする。	(前回評価に対する具体的な取組み) ・引き続き事業の進捗に努める。		

一級河川芥川河川改修事業概要図

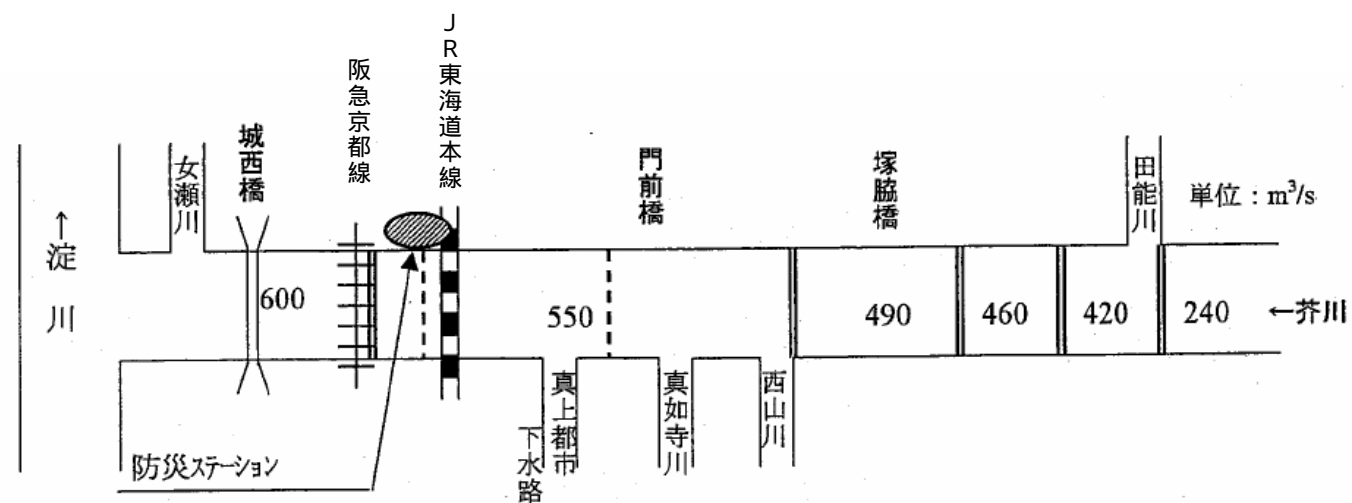
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

